

平成30年度 全国学力・学習状況調査の伊勢原市結果の分析について

伊勢原市教育委員会

伊勢原市では、児童生徒の学力や学習状況に関し、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。

伊勢原市立小中学校の調査結果の概要をお知らせします。

【調査日時】平成30年4月17日（火）

【調査対象学年】小学校6年生 833人 中学校3年生 798人

【調査内容】

1 教科に関する調査

- ・ 国語A、算数A・数学A・・・主として「知識」に関する問題
- ・ 国語B、算数B・数学B・・・主として「活用」に関する問題
- ・ 理科・・・主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

2 児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

【調査結果についての留意事項】

- 実施教科が国語、算数・数学、理科の3教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること。
- 年度によって問題の質が異なるため、平均正答率の経年変化のみから、学力の向上、低下の傾向を評価することは難しいこと。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 平均正答率

小中学校共に、全国及び神奈川県と比較して、正答数・正答率と大きな差は見られませんでした。

また、小中学校ともに、国語、算数・数学において「活用」に関する調査については、「知識」に関する調査結果と比べると正答率が低く、知識・技能を「活用」する力に課題が見られました。

《平成30年度教科に関する調査の平均正答数と平均正答率（％）（公立小中学校）》

小学校	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
伊勢原市	8.0	67	4.1	51	8.5	61	4.8	48	9.5	59
神奈川県	8.4	70	4.3	54	8.9	64	5.2	52	9.5	60
全国	8.5	70.7	4.4	54.7	8.9	63.5	5.1	51.5	9.6	60.3

中学校	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
伊勢原市	24.4	76	5.7	63	23.8	66	6.8	49	18.6	69
神奈川県	24.2	76	5.6	62	23.6	66	6.7	48	17.7	66
全国	24.3	76.1	5.5	61.2	23.8	66.1	6.6	46.9	17.9	66.1

※平成29年度から県及び市の平均正答率は整数表示

(2) 教科・設問ごとの分析結果

教科に関する調査結果について、各教科・設問ごとに分析したところ、習得の状況が良好であると見られる特長と指導の改善・充実が求められる課題とが見られました。

～主な特長と課題～

小 学 校	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。【A問題】 ・話合いの参加者として、質問の意図を捉えること。【B問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。【B問題】 ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと。【A問題】
	算数	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めること。【B問題】 ・異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること。【A問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現すること。【B問題】 ・180° や 360° を基に分度器を用いて、180° よりも大きい角の大きさを求めること。【A問題】
	理科	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・より妥当な考えをつくり出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察すること。 ・堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解すること。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること。 ・より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること。
中 学 校	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問すること。【B問題】 ・段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にすること。【A問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いの話題や報告を捉えて的確に話すこと。【A問題】 ・目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと。【B問題】
	数学	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・見取り図、投影図から空間図形を読み取ること。【A問題】 ・文字式に数を代入して式の値を求めること。【A問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対値の意味を理解すること。【A問題】 ・事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明すること。【B問題】
	理科	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘すること。 ・実験の結果を示した表から電流の値を読み取ること。
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること。 ・神経系の働きについての知識を身に付けること。

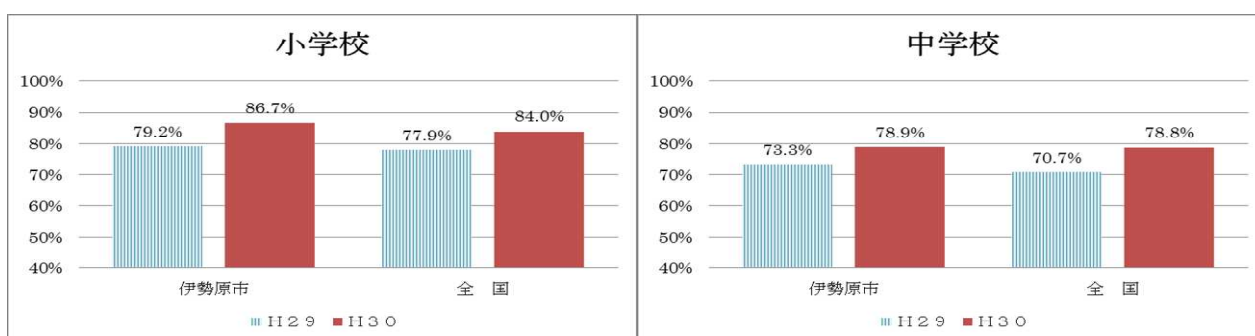
2 児童生徒質問紙調査の結果から

* 各グラフの数値は、質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童生徒の割合を示す。

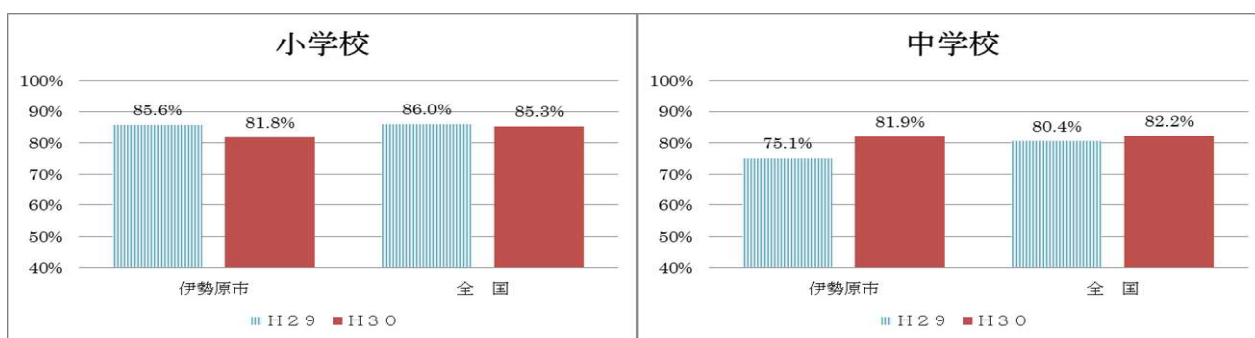
(1) 児童生徒の生活に対する意識に関して

- 「自分には、よいところがある」と感じている児童生徒の割合が、全体的に高まっている傾向があり、各校での教育活動や道徳教育などにおける一定の成果が表れていると思われます。一人ひとり適切な評価に努め、よいところは積極的に褒める等、個に応じた指導を更に充実させることに留意する必要があります。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している割合は、全体的に高い割合を示していますが、引き続き、児童生徒の意識を高めていく必要があります。

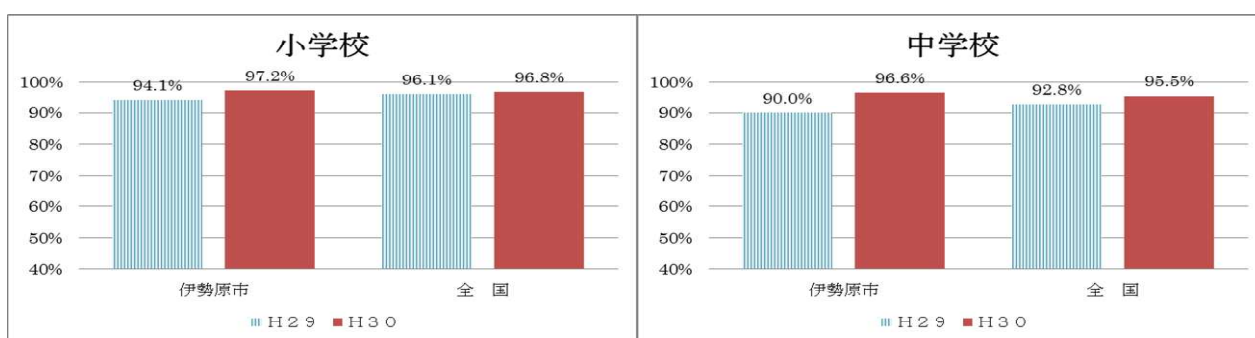
Q 「自分には、よいところがあると思いますか」



Q 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」



Q 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」



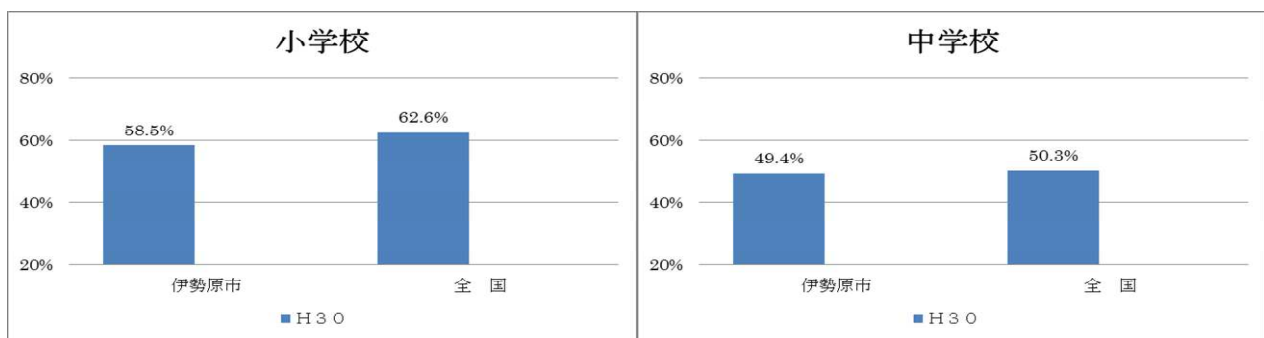
(2) 家庭学習に関して

○「家で学校の授業の予習・復習をしている」と回答している割合は全国と比べると低い割合を示していますが、「家で学校の宿題をしている」と回答している割合は全国と比べると小学校では高い割合となりました。

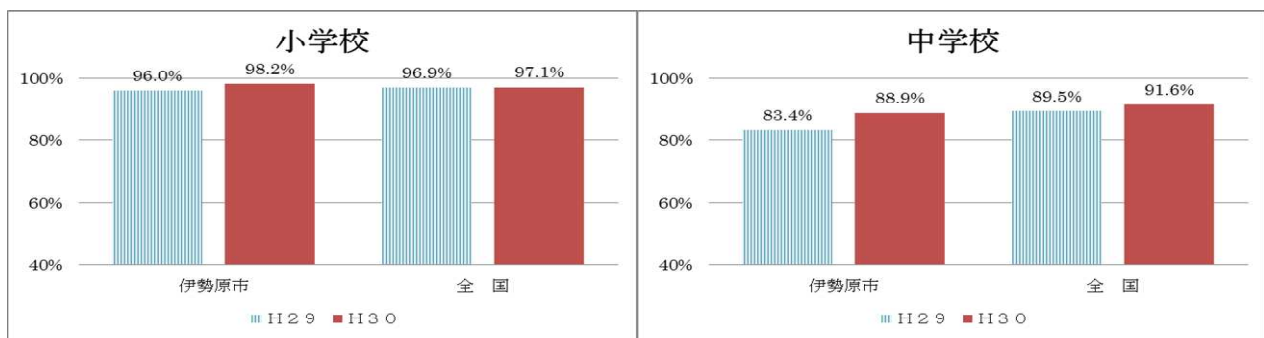
○宿題をするなど家庭学習する習慣は身に付いています。引き続き、家庭学習についての学習方法や家庭への指導や啓発を図っていく必要があります。

○勉強の時間と正答率の関係は一概には言えませんが、家庭学習を全くしない児童生徒への支援の必要があります。勉強の仕方や自分の学習課題が明確になることで、主体的に学習に取り組めるようになります。学校と家庭が連携をして、学校の学びを家庭へつなげることが大切です。

Q「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」(新規)



Q「家で学校の宿題をしていますか」

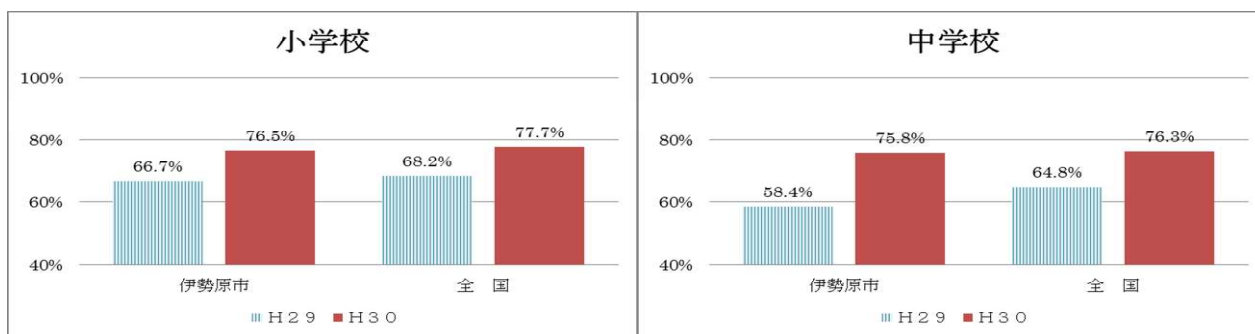


(3) 主体的・対話的で深い学びの視点から

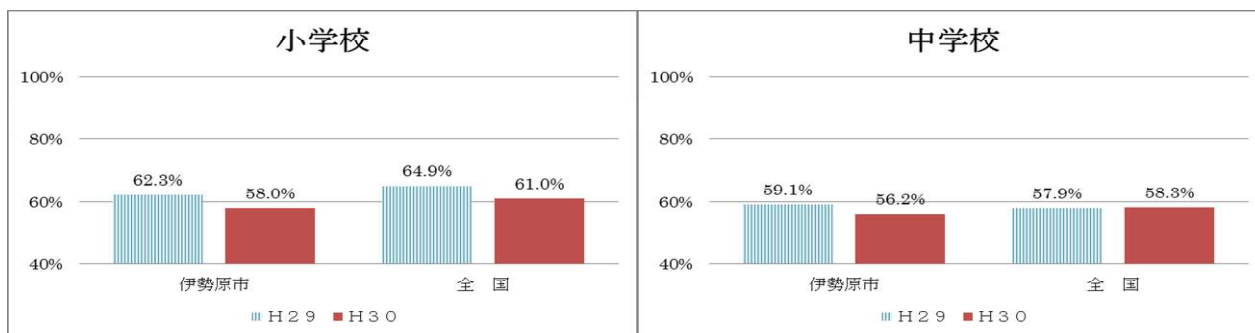
○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と感じている割合は、全国と比較して大きな差はなく、昨年度と比べると、割合が増加している傾向にあります。

○学級で話し合う活動をする取組が充実してきていることがうかがえます。引き続き、思考力・判断力・表現力等の基盤となる言語能力の育成に当たって、発達段階に応じた問いを設定するなど指導を工夫していくことが重要です。

Q「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」



Q「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」

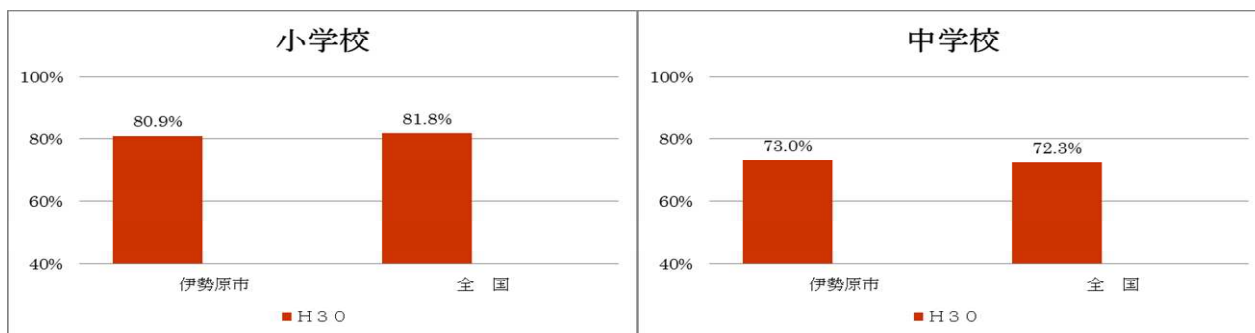


(4) 理科の授業に関して

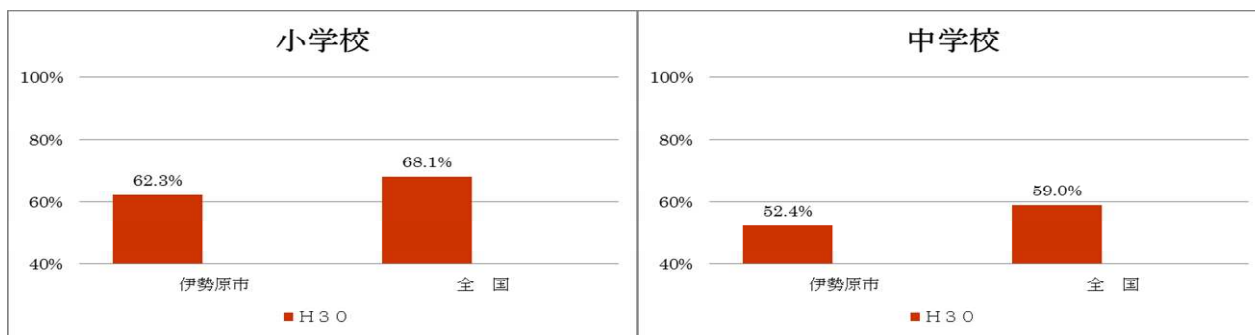
○理科の授業で、観察や実験の結果から考察しわかったことを考えることは、全国と比較して大きな差はなく高い割合になりました。しかし、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えることは低い割合になりました。

○理科の授業では、実験や観察を見通すこととともに振り返って考えることが大切です。振り返って考えることによって、学習内容の確実な定着を図れるとともに、妥当性を検討するなど総合的に振り返る力を付けることができます。振り返りをしてまとめる活動を計画的に授業に取り入れることが重要です。

Q「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考えていますか」



Q「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」



3 児童生徒質問紙調査と教科に関する調査のクロス集計結果から

児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査結果との関係を見ると、次のような児童生徒ほど、教科の正答率が高いという傾向が見られました。

- 朝食を毎日食べている。
- 家で、自分で計画を立てて学習している。
- 家で宿題をしている。
- 家で教科書を使いながら学習している。（中学校）
- 地域や社会の出来事に関心がある。
- 自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
- 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

4 学校がよりよい授業実践に向けて重視していきたいこと

各学校では、次のような点を重視し、全学年・全教科を通じて授業の充実を図る必要があります。

- ☆ めあて、自分の考え、授業のポイントをノートに書かせ、授業のめあてが達成できたか、授業で何が分かったか、何ができるようになったか、振り返りを行う。
- ☆ 発問や指示を厳選し、子どもの考える時間（書く時間）・相談する時間・深め合う時間を大切にする。
- ☆ 実生活における事象との関連を図った授業を行う。
- ☆ 言語活動については、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体で取り組むこと。
- ☆ ICT（情報通信技術）を活用した授業を行うこと。
- ☆ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができる機会を設けること。

【小学校国語】

- 共通点や相違点を明らかにしたり、複数の事柄を関係付けたりしながら、話す、聞く、書く、読むこと。→言語活動を通して力をつけること。
- 言語環境を整えること。（漢字、読書、慣用句など）→日常生活の中で触れることを通して身につけること。

【小学校算数】

- 作業的・体験的な活動を通して、数量の関係について理解できるようにすること。
- 日常生活の事象を表やグラフを基に、複数の観点で考察したり表現したりすること。

【小学校理科】

- 既習の内容や生活経験と関連付けて話し合う場を設定し、提示された自然の事象・現象を捉えることができるようにすること。
- 問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討すること。

【中学校国語】

- 言語活動を通して、「情報を得る」→「得た情報を整理し、的確に理解する」→「得た情報を活用して表現する」力を身につけること。
- 学習したことを意識的に使用すること。→国語への関心・意欲・態度を高めること。

【中学校数学】

- 身近なものについて視点を決めて観察し、平面図や立体図などに表現して、その空間図形のもつ性質を考察する活動を取り入れること。
- 事象を数学的な解釈に基づいて捉え、その性質を理解すること。

【中学校理科】

- 自分の考えを持ち、自分や他者の考えを検討して改善する学習活動の充実を図ること。
- 日常生活や社会との関連を図り、理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようにすること。

5 家庭にお願いしたいこと

進んで学ぶ子どもを育てるために、家庭においても特に次の点について、ご指導をお願いします。

- 規則正しい生活習慣を心がけましょう。
例) 早寝・早起き・朝ごはん、家庭学習や読書等の習慣 等
- 家族で、学校や社会での出来事、将来のことなどについて話をしましょう。
- 日常生活の中での「達成感」を大切にしましょう。
例) 家庭の中で子どもに役割を与えましょう、子どものがんばりをほめましょう 等
- ボランティア活動や地域の行事等に一緒に参加しましょう。
例) 市民総ぐるみ大清掃、公民館まつり、総合防災訓練、地区・学区体育祭などへの参加 等
- テレビゲームや携帯電話・スマートフォン等の使い方について、話し合ひましょう。
「伝え合おう 大切なこと 互いの声で」
「スマートフォンをスマートに ～大切なのは自制心～」
(平成 27 年度伊勢原市中学生からのスローガン)



伊勢原市教育委員会では、家庭学習の手引きとして、冊子『学びのすすめ』を作成し、学校を通じて家庭に配布しています。ぜひご活用ください。

参考) 冊子『学びのすすめ』は伊勢原市教育センターのウェブサイト内リンクリストからダウンロードできます。(<http://www.isehara.ed.jp/center/>)